



## 若手AI研究者の北欧滞在記

みなさん、こんにちは。京都大学の井上昂治といいます。私は若手（駆け出し）のAI研究者です。AIといえば、最近ChatGPTが話題ですね。私の専門分野は「会話ロボット」ですが、ChatGPTの技術により非常に高度な会話の実現できつつあります。私の研究では、ChatGPTではカバーできない部分に焦点をあてています。それは、会話の「間（ま）」です。ChatGPTやLINEなどでは発言の最後に「Enter」を押して送信しますが、会話ロボットにはキーボードはありません。つまり、音声の間（ま）から判断するしかありません。私たち人間はこれをスムーズに行うことができますが、現状の会話ロボットにはまだまだ難しい問題です。このような会話の間をうまく制御する技術を「ターンテイキングシステム」といいます。私は会話ロボットと心地よくスムーズに会話をするためのターンテイキングシステムの実現に取り組んでいます。

さて、このような研究を京都大学で数年間にわたり取り組んできましたが、昨年5月から10月まで、北欧のスウェーデンに研究滞在するチャンスを得ることができました。これは京都大学大学院情報学研究科の若手教員海外長期派遣事業によるものです。私はこの制度を利用して、スウェーデン王立工科大学（通称、KTH）にある会話ロボットなどを扱う研究室に滞在しました。KTHはヨーロッパの有名理系大学のうちのひとつで、ヨーロッパだけでなく、世界中から多くの留学生・研究者が集います。場所はスウェーデンのストックホルム市内の中心部からすぐの場所にあり、例えば、ノーベル賞の授賞式や晩餐会が開かれる市庁舎などへも簡単に行くことができます。

KTHでは、多くの教員・学生と交流することができ、とても充実した研究生活を送ることができました。また、普段日本にいないと気づかないことを学ぶことも多く、刺激的な毎日でした。今回は、研究についてはほどほどにして、それ以外の部分について紹介したいと思います。

ご存じかと思いますが、北欧諸国はワークライフバランス大国です。スウェーデンももちろんそうでした。私の周りの人たちは皆ワークライフバランスが充実している印象でした。ただし、単に「ワーク」を減らして「ライフ」を増やすのではなく、どうすれば効率

よく仕事を進めることができるのかに重きが置かれていました。例えば、紙の書類でのやりとりというのはほとんどありませんでした。いろんな申請や処理をする際にはすべて電子的にオンラインで完結するようになっていました。また、そのオンラインシステムについても常に改善が進められていて、あらゆるものが使いやすかったです。ただし、私の滞在中に家賃の支払いシステムがアップデートされたことがありましたが、その際に以前のシステムはバツサリと停止されていました。つまり、移行期間のようなものはありません。使う側（ユーザ）がそれに合わせるのが基本でした。このようなシステム構築・アップデートはとても大変なもので、トラブルがつきものですが、ユーザのことばかりを気にしすぎるときりがありません。そういう意味では、いろんな人たちのことを考えた上で最適な方法なのかもしれないなと思いました。お客様第一の日本では難しいかもしれませんね。

次に、スウェーデンでの人間関係についてです。スウェーデンでは、年齢・性別に関係なく、お互いにファーストネームで呼び合うとてもフラットな文化が根付いています。これは大学においても同様で、教授や学生でも関係ありません。そのため、学生らはとても自立しており、自分の研究を主体的に進めていました。もちろん、先生たちから「教えてもらう」ことも大事ですが、自分自身で主体的に学ぶ姿勢は日本の私たちが学ぶべきことかもしれません。「自立」を表す別のエピソードを紹介したいと思います。今回の滞在中にランチパーティに参加する機会がありました。日本だと主役の人が挨拶をすることがありますが、そのような場面はなく、しかも開始と終了にみんなが揃うこともありませんでした。自分が来たい（来られる）時間に来て、帰りたい（帰らないといけない）時間に帰る、そして主役を含むみんなで会話を楽しめたらそれでOK、というとてもリラックスした「緩い」雰囲気でした。日本では周りに合わせてしまうことが多く、「もてなし」に対する考え方もやはり違いますね。

ほかにもスウェーデンでは驚いたことや勉強になったことが多くありましたが、スペースの関係でここまでにさせていただきます。海外での長期滞在には、言語も含めて慣れないこともありますが、日本との違いを楽しみそして学ぶことができます。皆さんも海外留学のチャンスがあればぜひトライしてみてください。ちなみに、私は高校生のときから「海外留学してみたい」と思っていたのですが、なかなか実現しませんでした。それでも、（英語を含む）勉強や研究に一生懸命取り組み続けることで、約10年後に今回の滞在中が実現し、そして充実した時間を過ごすことができました。皆さんもぜひ目の前の勉強に一生懸命取り組み、少し先の未来につなげてもらえればと思います。



(京都大学 井上昂治)

